

2011年3月期 上期 決算概要

テルモ株式会社
執行役員 経営企画室長

佐藤 慎次郎

2010年 10月28日

決算概要

(億円)

	10/3期 上期	11/3期 上期	増減率
売上高	1,581	1,639	4%
粗利益	833 (52.7%)	856 (52.2%)	3%
販管費	507 (32.1%)	529 (32.2%)	4%
営業利益	326 (20.6%)	327 (20.0%)	0%
経常利益	322 (20.4%)	282 (17.2%)	-13%
純利益	208 (13.1%)	184 (11.2%)	-12%
期中平均レート	US\$ 96円 EUR 133円	89円 } 売上高 114円 } -4%影響	

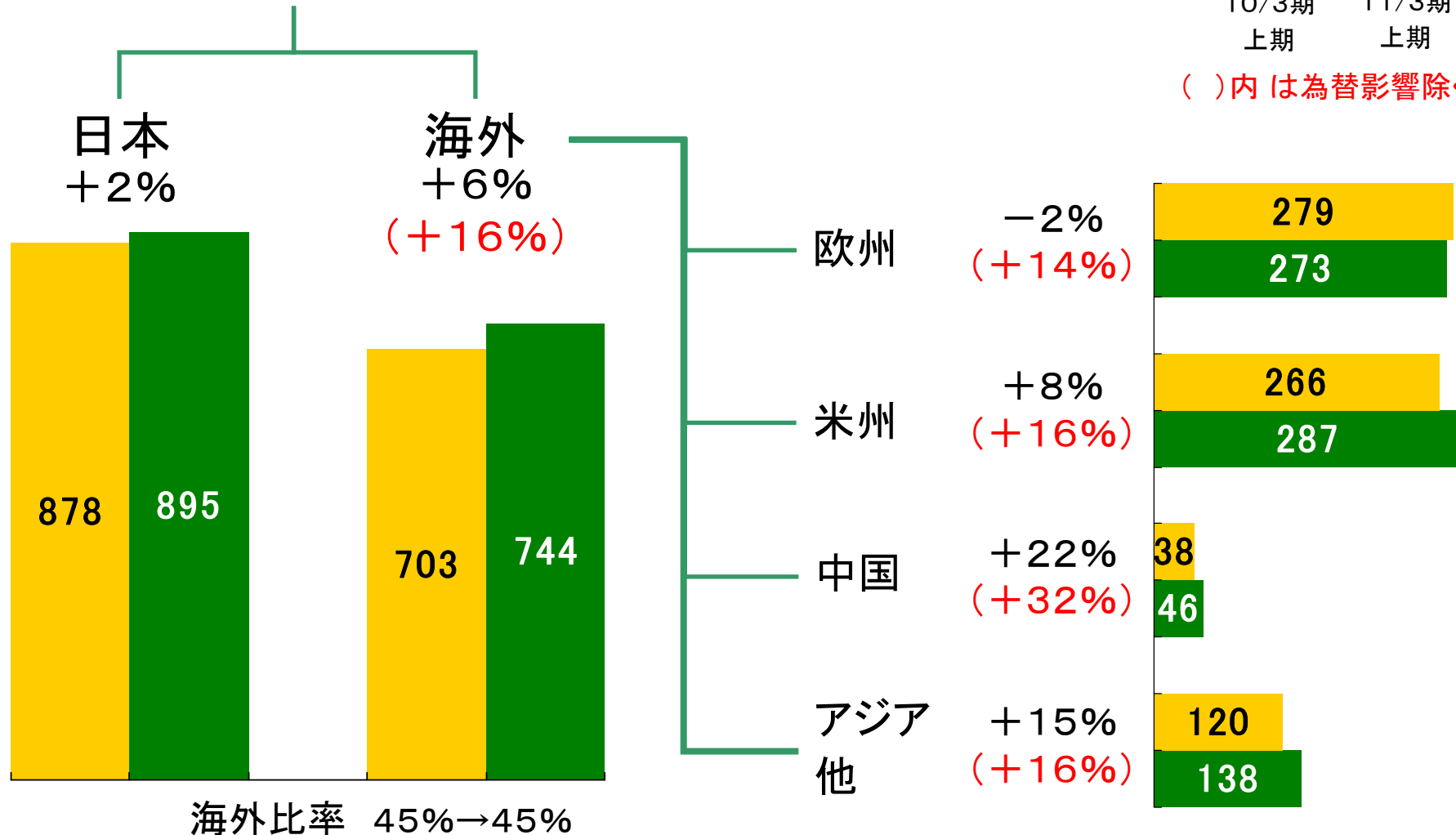
売上高 (地域別)

(億円)

10/3期 11/3期
上期 上期

()内は為替影響除く

連結: +4% (+8%)



海外好調の主な要因

カテーテル事業が牽引

新興国で高い伸長

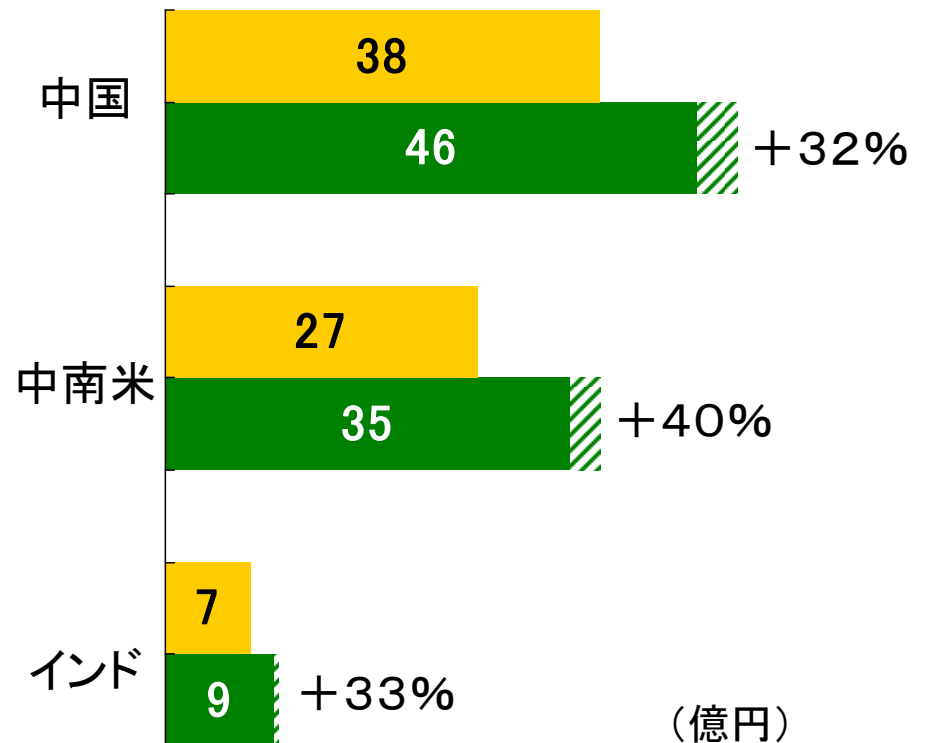
■ 欧州で22%伸長

—薬剤溶出型ステント「Nobori」倍増

■ 米国で17%伸長

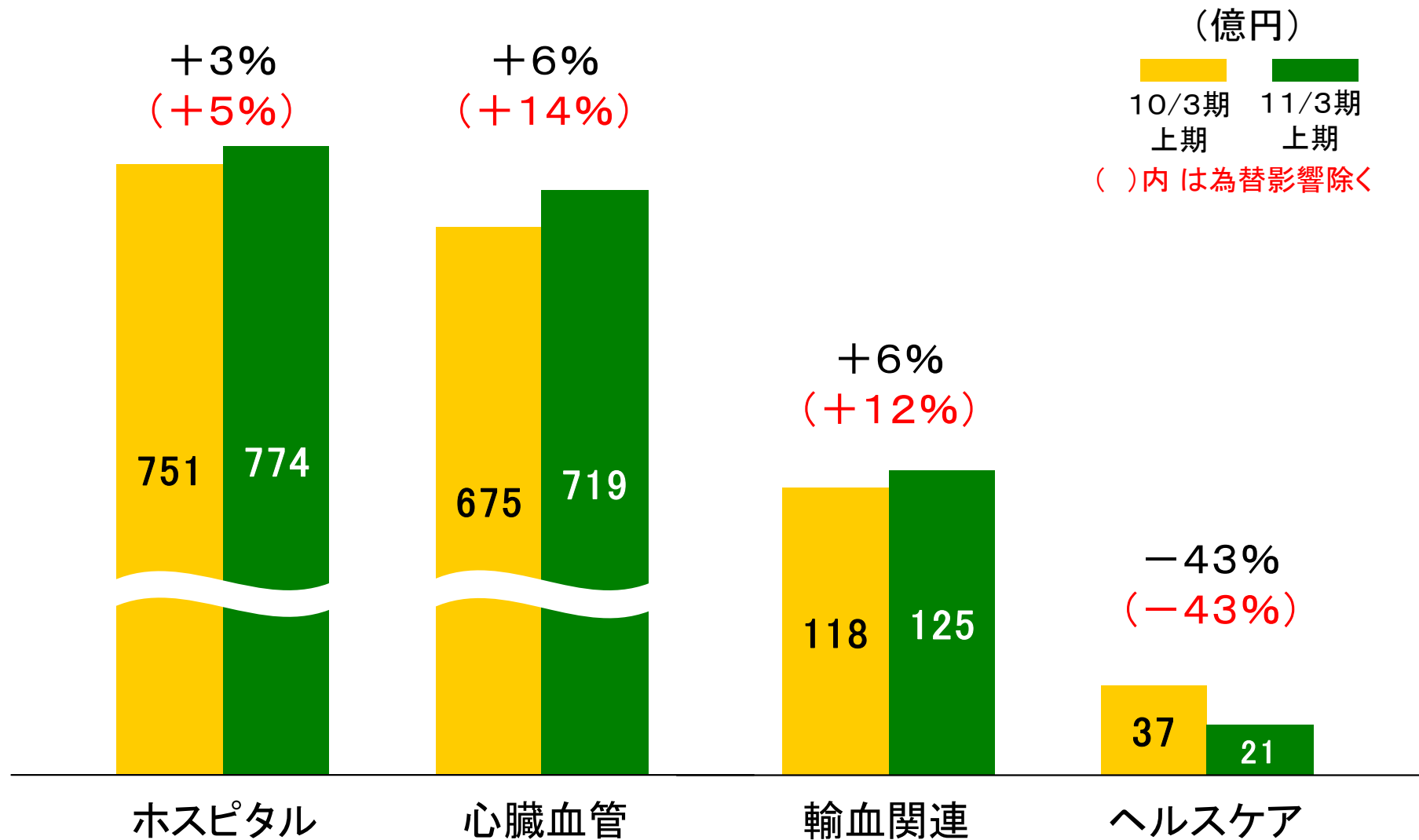
—TRIの順調な普及により
関連商品の売上が拡大

※為替影響除く

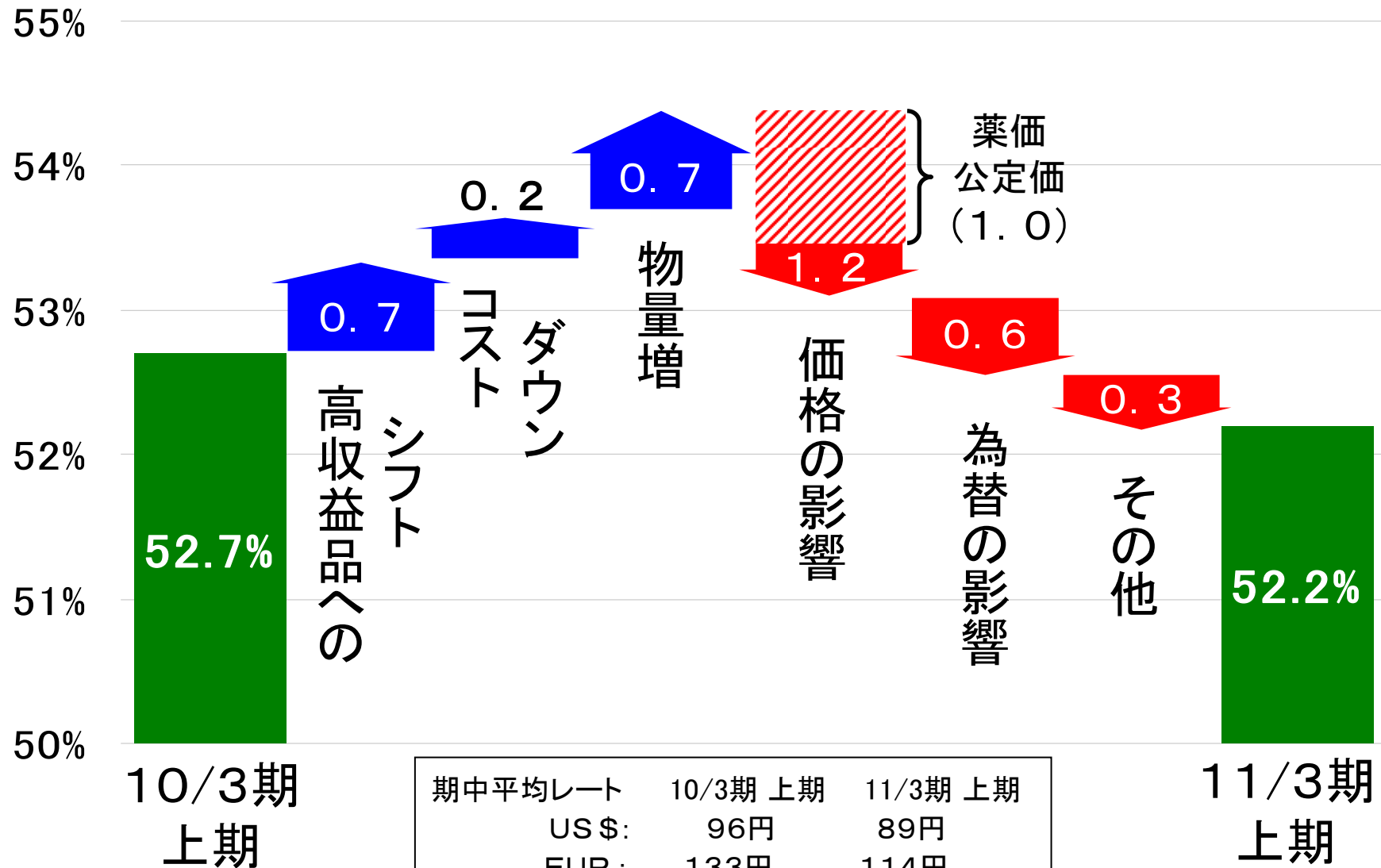


(億円)
10/3期 上期
11/3期 上期

売上高（事業セグメント別）



粗利益率差異分析



販管費

(億円)

	10／3期 上期	11／3期 上期	増減	増減率
人件費	191	195	+4	+2%
販促費	52	51	-1	-2%
物流費	44	47	+3	+7%
償却費	26	23	-3	-13%
その他	112	115	+3	+3%
一般管理費計	425 (26.9%)	431 (26.2%)	+6	+1%
研究開発費	82 (5.2%)	98 (6.0%)	+16	+20%
販管費合計	507 (32.1%)	529 (32.2%)	+22	+4%

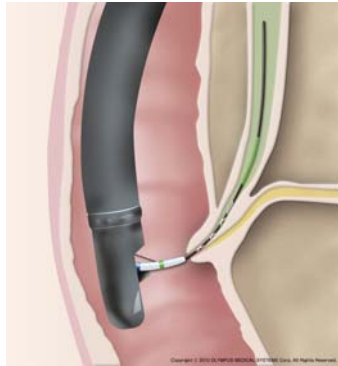
2011年3月期通期業績予想について

下期想定レートを見直し、通期予想を修正

(億円)

	11/3期 当初予想	11/3期 修正予想	差額
売上高	3,330	3,260	-70
営業利益	652 (19.6%)	633 (19.4%)	-19
経常利益	650 (19.5%)	572 (17.5%)	-78
純利益	415 (12.5%)	363 (11.1%)	-52
想定レート	下期 通期 US\$ 90円 90円 EUR 120円 120円	下期 通期 US\$ 80円 85円 EUR 113円 113円	

今後の成長に向けて



①内視鏡用
ガイドワイヤー

疎水性
コーティング

膨潤性
コーティング



②脳血管内
塞栓用コイル

親水性
コーティング



血管造影・治療用
ガイドワイヤー

TRI用シース

画期的商品を戦略的に開発

- トップシェア商品を徹底的にベンチマーク
- アライアンスの枠を超えてマーケットニーズを調査

「細さ」と「剛性」という相反する要求をクリア
1本でほとんどの処置が可能に

- メリット
- ・手技時間の短縮
 - ・症例毎にデバイスの選択で悩まない
 - ・医療経済性に貢献

提携により市場を変える

●開発前の状況

- ー内視鏡治療において最重要デバイス
- ーガイドワイヤーでは外資メーカーが市場を席巻

●開発の狙い

ガイドワイヤーで
世界最高の**技術力**

内視鏡分野で
圧倒的な**販売力**



×



医師が求める理想のガイドワイヤーで市場を塗りかえる

画期的な技術が市場が評価

- 2009年10月 海外向け 販売開始
- 2010年 4月 国内向け 販売開始

発売後大反響 米国シェア10%、日本でも20%を越える

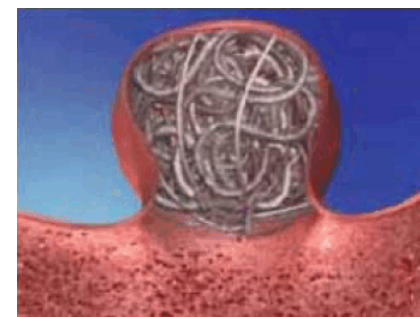
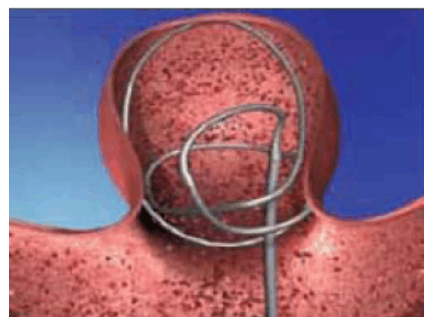


目標「3年後 グローバルシェア30%」が射程圏内に

**更なる協業により改良・改善を重ね、
世界市場No.1を目指す**

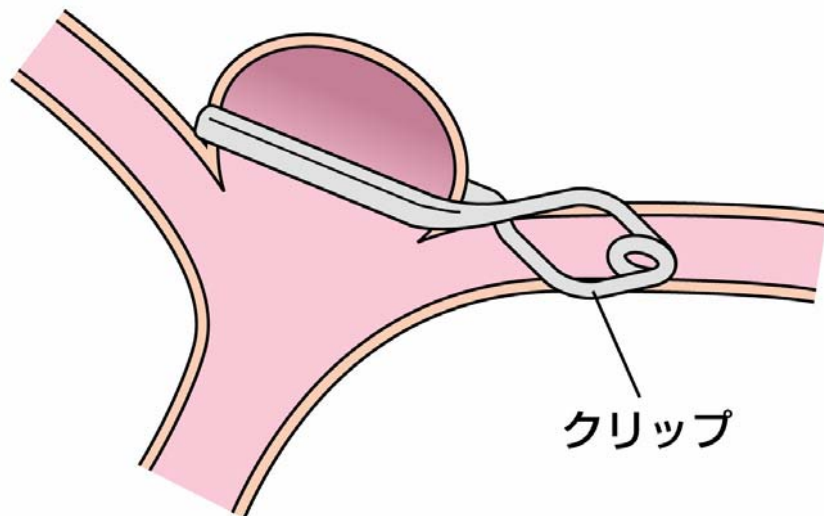
オンリーワン技術でニューロ市場拡大を牽引

●脳血管内塞栓用コイル



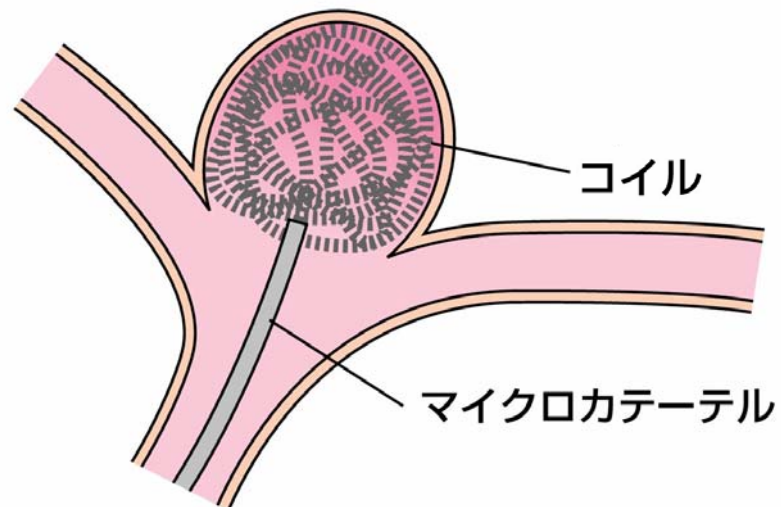
脳血管内治療の潮流

開頭クリッピング術



日本では依然主流

コイル塞栓術



欧米で普及

今後、日本でもより低侵襲な
コイル塞栓術へのシフトが進む

ハイドロコイルの優位性

●ハイドロコイルの特性

- 血液に反応して膨らみ、瘤内を充填
- 世界でオンリーワンの技術



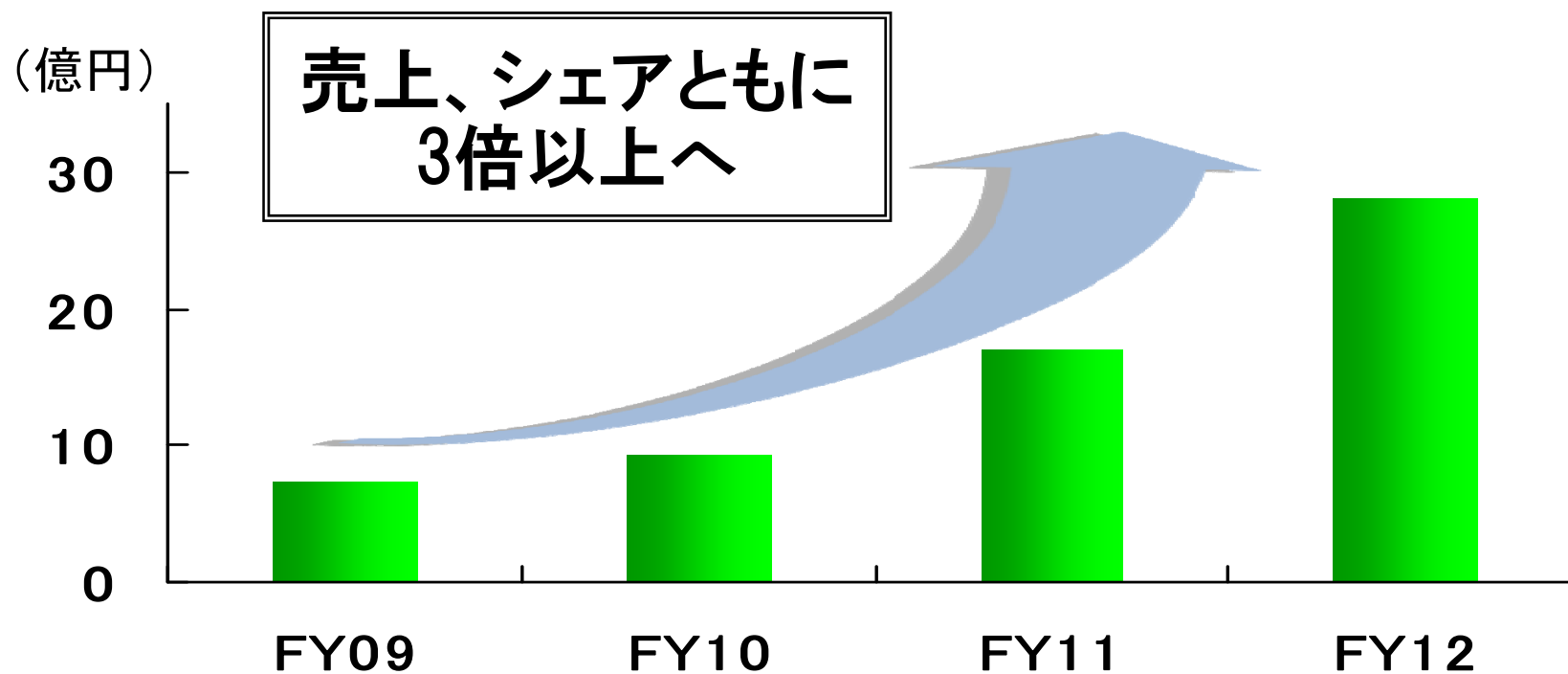
●HELPS*の結果

*2010年 欧米7カ国 ハイドロ vs ベアのランダム臨床試験

評価項目	ハイドロ	ベア	
瘤の充填率	68.3%	24.9%	ハイドロは充填率高い
再発率	ハイドロはベアよりも 8.6%低い		統計的に有意差あり
再治療率	2.9%	3.6%	ハイドロ優位

ニューロ事業の国内成長戦略

1. 新商品の継続導入 2. エビデンス強化 3. 販売体制の増強



FY12 国内ニューロ市場 No.1を目指す

参考資料

11/3期の収支概況 - 対上期公表値

(億円)

	<u>上期公表値</u>	<u>上期実績</u>	<u>差異</u>	<u>為替影響</u>
売上高	1,640	1,639	-1	-13億円
営業利益	326 (19.9%)	327 (20.0%)	+1	-5億円
経常利益	325 (19.8%)	282 (17.2%)	-43	
純利益	208 (12.7%)	184 (11.2%)	-24	

想定レート

為替レート(US\$)	90円	89円
(EUR)	120円	114円

11/3期の収支概況 - 対年間公表値

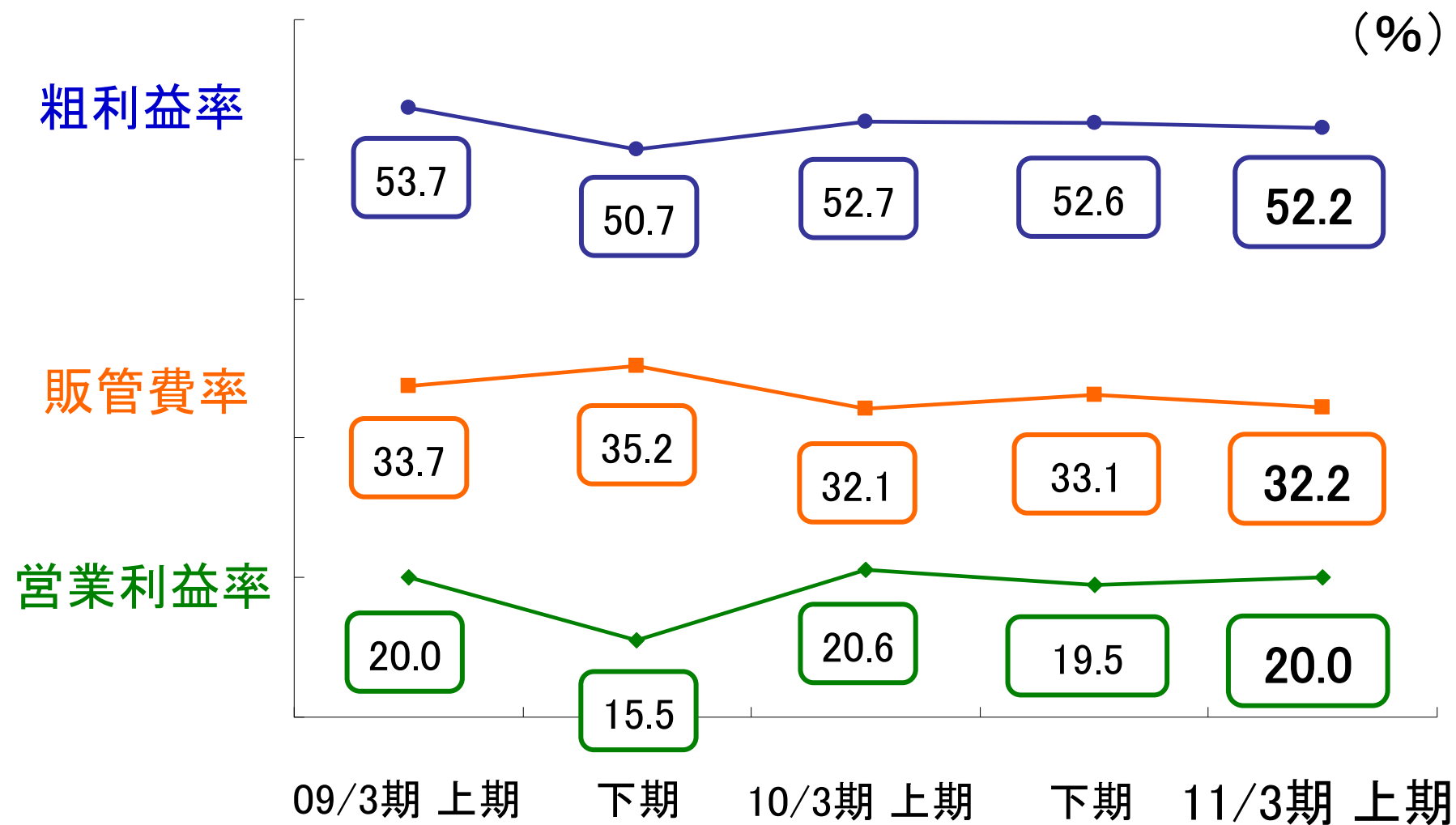
(億円)

	<u>年間公表値</u>	<u>上期実績</u>	<u>進捗率</u>	<u>為替影響</u>
売上高	3,260	1,639	50%	-13億円 (進捗率0.4%押下げ)
営業利益	633 (19.4%)	327 (20.0%)	52%	-5億円 (進捗率0.8%押下げ)
経常利益	572 (17.5%)	282 (17.2%)	49%	
純利益	363 (11.1%)	184 (11.2%)	51%	

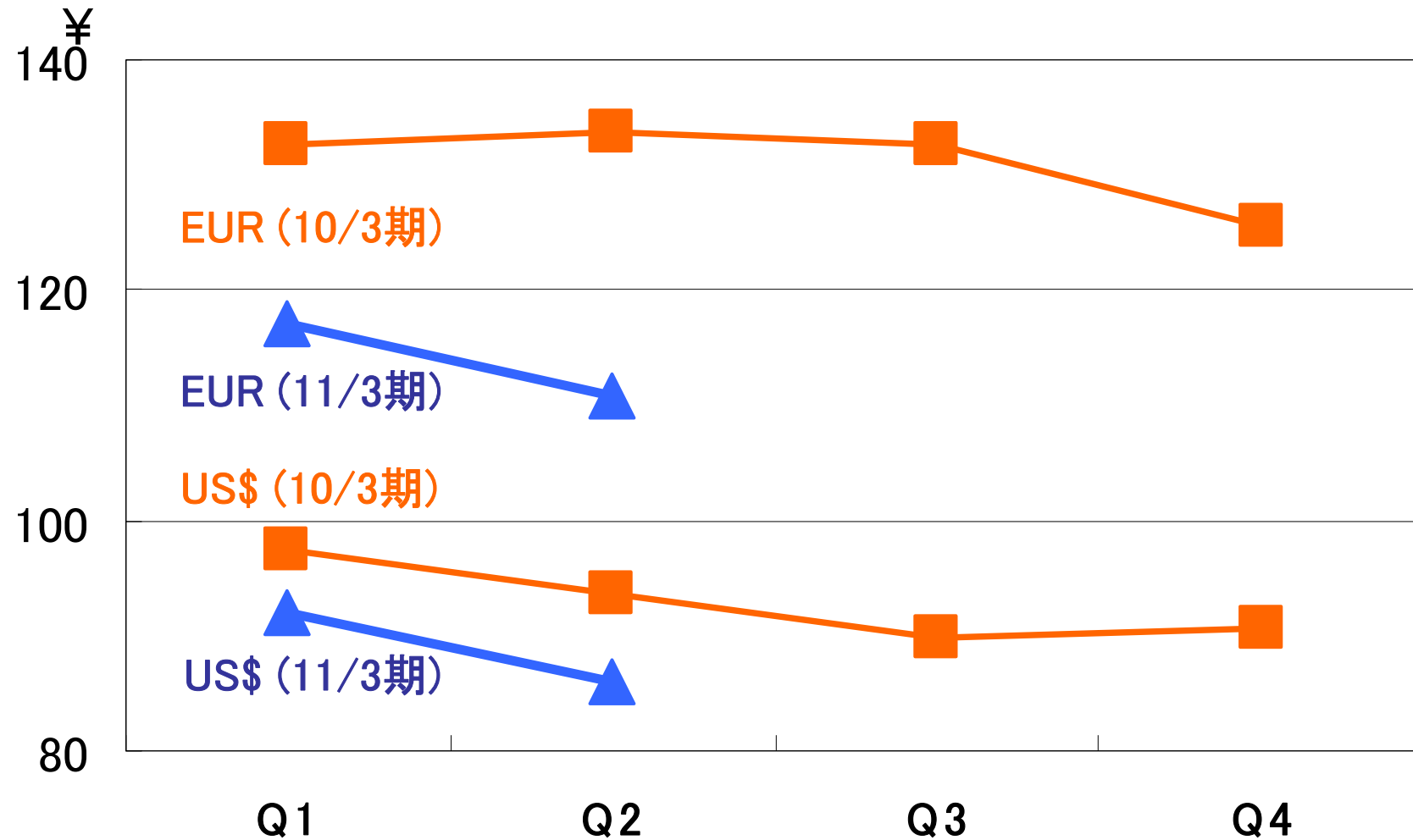
年間見通し

為替レート(US\$)	85円	89円
(EUR)	113円	114円

粗利益率、販管費率、営業利益率



四半期平均為替レート推移



《おことわり》

本資料のうち、業績予想ならびに将来予測は、現時点で入手可能な限られた情報に基づき、テルモで判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため様々な要因により、実際の業績等が変動する可能性があることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、テルモの事業領域を取り巻く経済情勢、為替レートの変動、競争状況などがあります。

また、市場規模等については、当社の独自の調査を含んでおります。